

日本一危険な動物園として有名な『ノースサファリ サッポロ』へ行って参りました。TVで見たことはありましたが、実際に来てみると施設が手作り感満載で動物との距離感が予想以上に近すぎて、動物好きな私も恐怖を感じるほど。場内の至る所に『自己責任』の看板があり、疑心暗鬼になりながら沢山の動物たちと触れ合いました。

そのあとはフードコートでお食事タイム。通常メニューの他にチャレンジメニューなるものがあり、内容を確認すると、昆虫ケバブ、カンガルーバーガー、クロコダイルフライドアームなど聞き慣れない料理がありましたが、誰一人チャレンジすること無く通常メニューを美味しく頂きました。

お約束の大蛇の首巻きも体験し、一日中楽しく過ごすことができました。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

オロポという飲み物をご存知でしょうか。これは現在とあるジャンルの方たちに非常に人気がある飲み物で、このオロポはとある事を済ませた後に飲む限定ドリンクなのです。ただ実はオロポよりも前にオロヤクというものが存在しておりまして、こちらはやや物足りなさがあるので、オロカルにオロ汁、そしてオーロワンと他にも開発されていきました。あくなき探求心でより事を堪能したいという気持ちの結果だと思えます。

では、オロという名称は一体何を示すものなのか。それはまさにオロナミンCのことでございます。そして、このオロナミンCに様々なものを混ぜ合わせ、それぞれのオリジナルのドリンク名がうまれていったのです。実に、この方面の方というのは、サウナ愛好家(通称サウナー)の方のことで。空前のサウナブームと言われたコロナ禍前の2019年にはサウナ愛好家は約2900万人もいたようですが、今現在はコロナの影響で大幅に減少し、約1800万人とのこと。ただ、昨年よりは100万人増加したということで人気再熱なのかも。

現役のサウナ愛好家である小生は、今日もサウナで整いました。そして、オロナミンCとポカリスエットをミックスし、キンキンに冷えた最強オロポで塩分補給をして完璧に仕上げております。明日もサウナの風が吹いていそうです。

東日本物流センター東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)



世界の拠点から

- From the base in the world -



今年も猛暑で忙しい日々が続いていますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。夏の食事は冷たいものの取りすぎに注意しながら、量よりも質を重視するといいいようです。夏バテしないようご自愛ください。

さて、今回は夏らしいものをご紹介します。暑い日でも涼しく感じられるもの…『風鈴』です。元は古代中国で、音の鳴り方で吉凶を占う道具だったそうです。これが仏教とともに日本に渡り、お寺や塔に下げられるようになりました。風鈴が聞こえる範囲に住む人々には災いがおこらない魔除けとしても使われていたようです。元々は、鉄、銅で作られていた風鈴が時代と共にガラス製に代わり、その音色から暑い夏を乗り切る道具として使われるようになったようです。

先日、太宰府天満宮に立ち寄る機会があり、境内に設置されている風鈴を見てきました。当日は天気がよく、色々な形が飾られている中、音を聴きながら歩くその空間はとても素晴らしいものでした。外になかなか出づらくなる暑さが続いているようですが、こういった楽しみ方もあると改めて考え直す良い経験でした。



福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、願王寺というお寺を紹介いたします。

この願王寺は名古屋市区内にあり、創建が829年と古い天台宗の寺院です。紹介しようと思ったのは、日本の仏教寺院なのに、変わった石像などが境内に置かれているためです。その石像というのは、韓国済州島の守り神であるトルハルバンと、インドネシアのジョグジャカルタから移設したガルダです。それぞれ境内入り口付近に2体ずつ置かれています(トルハルバンの方は一見して、イースター島のモアイのように見えました)。...

なぜそのような石像がこの寺院に置かれているかというと、先代住職が仏跡を巡る旅をライフワークとしていて、仏教がインド→中国→日本に伝わる過程で経由した朝鮮半島の文化にも惹かれ、このトルハルバン(複製品)を衝動買いして、日本に送ったようです。

もともと先代住職は、差別感情を持たないという信念の方だったこともあり、このトルハルバン以外のガルダなども更に、仏教寺院ですが置くことにしたようです。

他に国内ではトルハルバンを見られる所はないと思いますので、トルハルバン、ガルダなど見に行かれてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

電車や人混みを除いてマスク無しの生活が戻っていますよね。特にドライブで出掛ける時は、家族だけの空間だとマスク無しが当たり前になってきました。そして、外食も普通になってきました。出先に行っても、飲食店での食事にためらいが無くなっています。良い傾向です。

さて今回は、前回の舟屋の里伊根の帰りに舞鶴若狭自動車道唯一のサービスエリア西紀SA(上り)に行った時の話です。ここのレストランのイチオシは『但馬牛の五種ひしめき丼』です。このメニューは今年、『西イチグルメ決定戦 あなたが選ぶ、西の井ぶり王』でグランプリを受賞しました。大きな器に山菜がまぶせられたご飯に五種の但馬牛(角煮、ローストビーフ、肉麻婆、一口焼肉、香草焼き)で味比べが出来ます。一口サイズのお肉は柔らかく、どれも美味。グランプリに選ばれるのも納得。税込み¥1,650は、他の地域のインパウンド価格と比較するとお値打ちにも感じます。

また通る際は是非食べたいと思います。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

8月17日に79年目となる、インドネシアの独立記念日を迎えました。

記念日をお祝いするために、いろいろな行事が行われていました。自分の住んでいる住宅団地は、約400軒の家があり、若者、つまりまだ子供が小さい夫婦が多いです。そのため、行事は子供用のゲームがたくさん行われていました。

子供用自転車のパレードでは、飾りが一番きれい、面白い自転車が優勝候補です。絵を描いたり、煎餅を子供の身長ぐらいで紐にかけてぶら下げ、子供たちの手を使わずその煎餅を先に食べ終わった子供が勝ちますなどの試合がありました。お父さんたち、お母さんたちの試合はバドミントン、卓球、綱引きなどがあります。試合は通常、週末や土日に行われ、優勝者の発表は次の週、土日で行われています。今年の場合、8月24日でした。

その日、住宅団地のちょうど自分の家の前にあるメイン道路には、ステージが作られ、派手なライトやスピーカーなどが準備されていました。つまりピークナイトの行事です。行事は夜19時半から夜中の24時までです。ステージでは、委員長や住宅団地長など、いろいろな人のスピーチがありました。そして、試合の優勝者の発表、子供たちや大人たちによるダンスや歌などがありました。結構音が大きく、夜中まで音楽が響いていました。中には、食事準備されていて、みんなと一緒に食べながらいろいろな話をしました。仕事で忙しくて会いにくい近所の人たちに会ったり、話したりする機会がこの行事でできるようになりました。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhvar)

～1,2,3,ナスビ！～

あっちでパシャリ、こっちでパシャリ。中国の人々は写真撮影が大好きです。中国版のLINEであるWeChat(微信)にも写真とコメントを載せるサイトがあります。旅行先での一枚、おいしい料理の一枚など、思い思いの傑作写真をアップするのがポピュラーです。行楽地へ行くと、撮影スポットでポーズをとりながら写真を撮る方があっちにもこっちにも。特に女性は若い人も、おばさまもモデルポーズをとって綺麗な一枚をと、何度も確認して撮る人も少なくありません。スマホのカメラ機能も驚くほど進化してきました。さらに、美颜美肌アプリも手軽にダウンロードでき、女性には大人気です。カメラ好きの人が多いためか、道行く人に撮影を頼むと、ベストショットが撮れるよう、角度を変えたり、時には立ち位置を指示したり、熱心に撮ってくれる人も珍しくありません。

撮影の時、日本では「ハイ、チーズ」、アメリカでは「Say Cheese」…ですかね。中国では茄子が登場します。中国語の発音は「チエズ」。チーズと同じように口が広がり笑顔になるので、シャッターを押す時は1,2,3,ナスビ！となるわけです。日本の観光地で、中国人旅行客にもし撮影を頼まれたら「1,2の3チエズ！」とお試ください。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

日本は連日の猛暑で、人の体温を超えるような危険な暑さが続いているとニュースで聞きます。熱中症などにはくれぐれも気をつけてください。

さて、パリ五輪が行われましたね！私も開会式の様子を録画で見ましたが、さすが芸術の国なだけあって演出など素晴らしかったと思います。アメリカも時差がありますのでライブではなかなか観られませんでした。週末などに楽しんで観戦していました。

ここロサンゼルスは、次の2028年に夏季オリンピックが開かれます。まだ少し早いですが、空港やスタジアムなどの建設が始まっています。歴代のロサンゼルス・メモリアル・コロシウムやローズボウルなどのスタジアムも存在していますが、2028年の開会式は新しくできたSoFiスタジアム(ソーファイ・スタジアム)で行われる予定です。

ソーファイ・スタジアムは2016年から建設が始まり、コロナ禍

などもあり、予定より遅れましたが2020年に完成しました。場所はLAX(ロサンゼルス国際空港)より5kmくらい離れたハリウッドパーク競馬場の跡地で、NBAのロサンゼルス・レーカーズが1999年まで本拠地にしていた(現在はダウントウンのクリプト・ドットコム・アリーナ)ザ・フォーラムの南隣にあります。スタジアムの総建設費は50億ドル以上で、世界一の大金が費やされたスタジアムです。収容規模は7万人以上で、イベントによって座席を追加することができ、最大10万人規模まで拡張することができます。現在はNFLのロサンゼルス・ラムズとロサンゼルス・チャージャーズが本拠地として使用しています。その他にも2022年第56回スーパーボウル、2023年カレッジフットボールプレーオフやコンサートなども開催されており、2026年に開催されるFIFAワールドカップ26でも使用される予定だそうです。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

どの国にも、地元の人にとっては普通でも、他の国の人から見ればおそらく奇妙に感じられる、特有の食べ物があります。

出張でバンコクにいた時、夕食中に興味深いものを見つけました。そうですね・・・私にとってはワニの肉は珍しくありません。私はもともとインドネシア出身で、この種類の肉を食べる人もいます。しかし、ワニを丸ごと見せている屋台の演出にとても感銘を受けました。エキゾチックな食べ物がエキゾチックな方法で提供されていました。この方法なら、人々を惹きつけ、立ち寄るきっかけを作り、売り上げを伸ばすことができます。この屋台のオーナーは賢いかもしれません。

アイデアは尽きません。時にはばかげたアイデアですが、時には素晴らしいアイデアです。シンプルなもの、思いもよらない良い結果をもたらすかもしれません。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

時々、私たちは自分たちが使っている全てのテクノロジーの便利さを忘れてしまい、当たり前になってしまいます。

夏休みにパリを通らなければならなかったのですが、常に交通渋滞でひどいものでした。今年はオリンピックがパリで開催されたため、さらに大変でした。開催数週間前から、パリを通り抜けるよりも迂回した方が良いと繰り返し注意喚起されていました。理由は、全ての高速道路で1車線が閉鎖され、オリンピックのサプライヤーやアスリートのみが使用できる状態だったためです。ボーナスとして、2600万人のサポーター動員を見込んでおり、観光も必要です。もちろん、これはパリのような混雑した都市での苦悩がさらに増すものであり、その問題点は迂回すると2時間も余分にかかることです。

帰りの旅では、カーナビを迂回ルートに設定しました。何時間かかるか分からない渋滞で立ち止まるよりも、2時間余分に運転したほうが良いと考えました。パリに近づいている間、ルートプランナーでいくつかのルートの実際の運転時間を調べ続けましたが、ルートプランナーはパリを通り抜けることを勧めませんでした。少し賭けでしたが、私たちは内側のルートをたどってパリでの最善を祈ることにしました。カーナビのおかげで、パリ周辺の渋滞は予想通り短く、私たちは2時間早く家に着きました。ほとんどの人は指示に従ってパリを避けていました。

カーナビのような“シンプル”なアイテムでさえ、誰もが当たり前のことと考えている今こそ、テクノロジーがどれほど役立つかを実感する時です。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)